

第1部 食肉の流通

1 肉畜の出荷及び枝肉生産の動向

(1) 肉畜の出荷(と畜)頭数をみると、豚は1,639万6千頭で前年に比べ1.3%増加し、5年ぶりに増加に転じた。牛は121万頭で前年に比べ4.6%減少した。

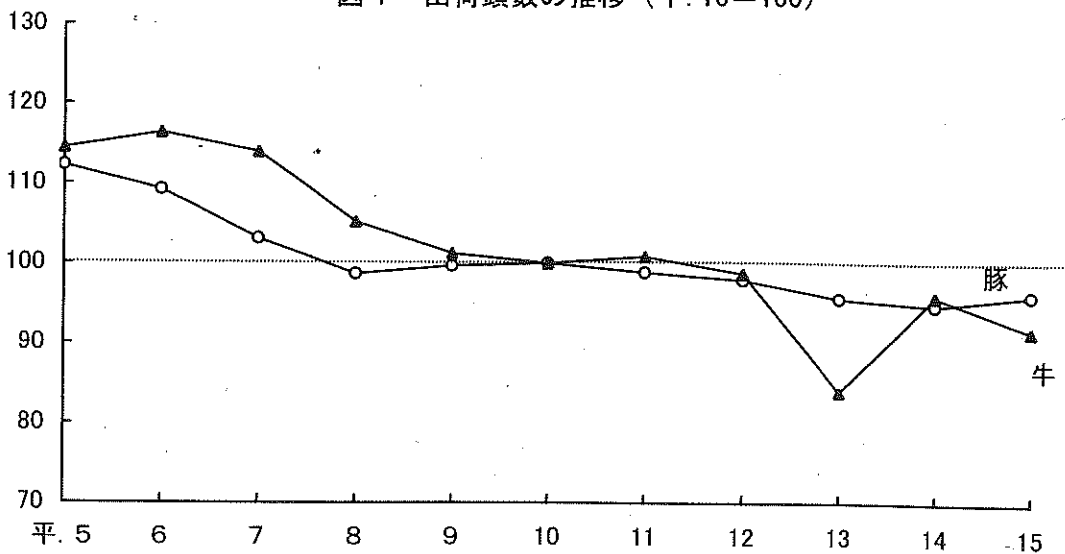
また、馬は1万9千頭で前年に比べ4.9%増加し、めん羊、やぎは共に4千頭で前年に比べそれぞれ1.1%、10.7%減少した。

表1 肉畜出荷頭数の推移

年次		豚	牛			馬	めん羊	やぎ
			計	成牛	子牛			
実数	平.10	17 077	1 321	1 310	10	20	5	6
	11	16 872	1 332	1 322	10	19	4	6
	12	16 717	1 304	1 297	6	18	4	6
	13	16 329	1 109	1 103	5	18	4	5
	14	16 183	1 268	1 263	5	18	4	4
	15	16 396	1 210	1 202	8	19	4	4
対前年比	平.10	100.3	98.8	98.5	151.6	98.9	80.5	95.1
	11	98.8	100.8	100.9	92.1	92.4	89.3	104.4
	12	99.1	97.9	98.1	66.3	96.5	80.2	108.9
	13	97.7	85.1	85.1	83.8	97.4	110.1	84.4
	14	99.1	114.3	114.4	88.9	102.3	92.1	81.6
	15	101.3	95.4	95.2	164.1	104.9	98.9	89.3

単位 { 実数:1,000頭  
比率:%

図1 出荷頭数の推移(平.10=100)



(2) 食肉の生産量(枝肉総生産量)は176万4千tで、前年に比べ0.9%減少した。このうち、牛肉は49万6千tで前年に比べ7.6%減少し、豚肉は126万tで前年に比べ2.0%増加した。

生産量に占める肉畜別の構成割合をみると、牛肉は2.1ポイント低下し28.1%(49万6千t)となった。一方、豚肉は2.0ポイント上昇し71.5%(126万t)であった。

表2 食肉(枝肉)の生産量の推移

単位 { 実数: 1,000 t  
比率: %

年次	計	豚肉	牛 肉				その他	
			小計	和牛	乳牛	他の牛		
実数	平.10	1 823	1 286	529	241	279	9	8
	11	1 825	1 277	540	240	290	10	8
	12	1 808	1 271	530	236	289	6	7
	13	1 707	1 242	459	206	248	5	6
	14	1 780	1 236	537	217	314	5	7
	15	1 764	1 260	496	188	301	6	8
対前年比	平.10	100.1	100.2	99.8	99.7	99.5	113.6	98.2
	11	100.1	99.3	102.1	99.5	104.0	114.7	93.7
	12	99.1	99.5	98.1	98.4	99.4	56.0	98.5
	13	94.4	97.7	86.5	87.0	86.1	84.2	85.1
	14	104.3	99.5	117.0	105.7	126.4	114.6	114.0
	15	99.1	102.0	92.4	86.8	96.0	113.8	105.2
構成比	平.10	100.0	70.6	29.0	13.2	15.3	0.5	0.4
	11	100.0	70.0	29.6	13.2	15.9	0.5	0.4
	12	100.0	70.3	29.3	13.1	16.0	0.3	0.4
	13	100.0	72.7	26.9	12.0	14.6	0.3	0.4
	14	100.0	69.4	30.2	12.2	17.6	0.3	0.4
	15	100.0	71.5	28.1	10.7	17.1	0.3	0.4

注:その他は、馬、めん羊、やぎである。

## 2 と畜場の状況

全国のと畜場数は208場で、前年に比べ32場（13.3%）減少した。これは、廃業やと畜場の統合等があったためである。

と畜場の種類別と畜場数及び構成割合をみると、食肉卸売市場併設と畜場が13.0%（27場）、食肉センターが34.6%（72場）、その他が52.4%（109場）を占めている。

表3 種類別と畜場数の推移

単位 { と畜場数：場  
比 率：%

区 分		計	食肉卸売市場 併設と畜場	食 肉 セ ン タ ー	そ の 他
実 数	平.13	253	28	82	143
	14	240	28	80	132
	15	208	27	72	109
対前 年比	平.13	91.3	100.0	93.2	88.8
	14	94.9	100.0	97.6	92.3
	15	86.7	96.4	90.0	82.6
構 成 比	平.13	100.0	11.1	32.4	56.5
	14	100.0	11.7	33.3	55.0
	15	100.0	13.0	34.6	52.4

豚及び成牛のと畜頭数規模別と畜場数及びと畜頭数をみると、豚を処理したと畜場数は175場で、前年に比べ17.1%減少した。これをと畜頭数規模別にみると、10万頭以上の階層はと畜場数で36.6%、と畜頭数で77.9%を占めている。

また、成牛を処理したと畜場数は165場で、前年に比べ4.1%減少した。これをと畜頭数規模別にみると、1万頭以上の階層はと畜場数で26.1%、と畜頭数で64.4%を占めている。

表4 と畜頭数規模別と畜場数及びと畜頭数の推移

単位 { と畜場数：場  
と畜頭数：1,000頭  
構 成 比：%

区 分			豚					成 牛				
			計	2万頭 未 満	2～5	5～10	10万頭 以 上	計	1,000 頭未満	1,000～ 5,000	5,000～ 1万	1万頭 以 上
と 畜 場 数	実 数	平.13	221	78	43	37	63	182	55	53	39	35
		14	211	78	40	28	65	172	44	45	39	44
		15	175	48	31	32	64	165	41	38	43	43
と 畜 頭 数	実 数	平.13	16 329	374	1 507	2 702	11 745	1 103	16	161	282	644
		14	16 153	226	1 424	2 085	12 419	1 263	12	133	291	827
		15	16 396	189	1 070	2 368	12 770	1 202	11	110	306	774
と 畜 頭 数	構 成 比	平.13	100.0	2.3	9.2	16.5	72.0	100.0	1.5	14.6	25.6	58.3
		14	100.0	1.4	8.8	12.9	76.9	100.0	0.9	10.5	23.0	65.6
		15	100.0	1.2	6.5	14.4	77.9	100.0	0.9	9.2	25.5	64.4

注：当該畜種の入場のあったと畜場のみの集計値である。

### 3 肉豚の概要

#### (1) 豚の出荷状況

豚の出荷（と畜）頭数は1,639万6千頭で、前年に比べ21万3千頭（1.3%）増加した。

平成10年（5年前）と比べると68万1千頭（4.2%）減少しており、また、この間の推移をみると、平成14年までは毎年前年を下回っていたものの、平成15年は前年を上回った。

図2 豚出荷（と畜）頭数の推移

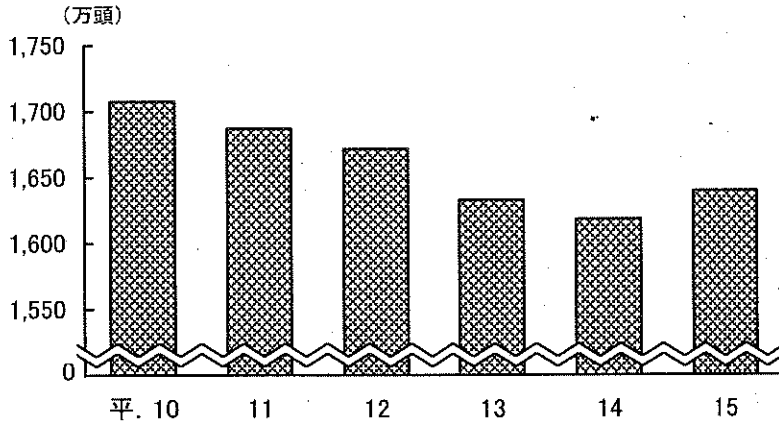
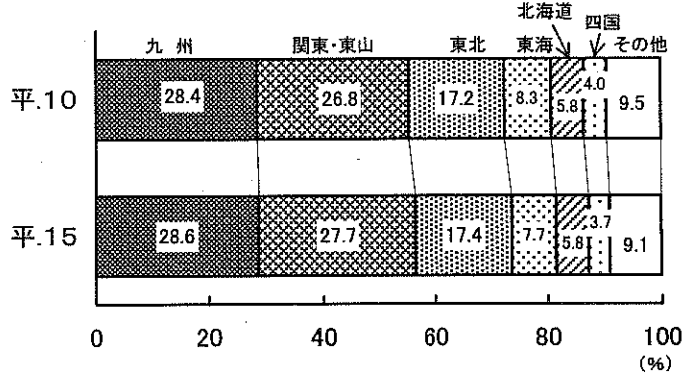


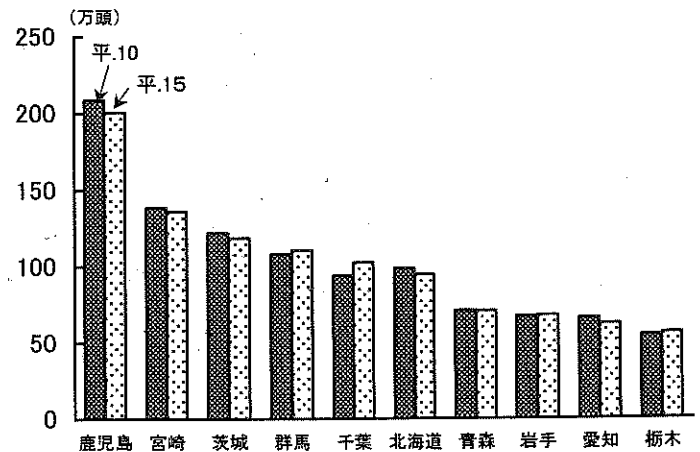
図3 豚出荷頭数の農業地域別割合の推移



豚の出荷頭数を全国農業地域別割合で見ると、鹿児島県、宮崎県を中心とする九州が28.6%（470万頭）を占めて最も高く、次いで、茨城県、群馬県を中心とする関東・東山が27.7%（454万2千頭）、青森県、岩手県を中心とした東北が17.4%（284万9千頭）を占めており、この3地域を合わせた割合は、平成10年に比べ1.4ポイント上昇し、73.8%となっている。

主産県の出荷頭数を、平成10年と比べてみると、群馬県、千葉県、岩手県、栃木県は増加したものの、鹿児島県、宮崎県、茨城県、北海道、愛知県は減少している。

図4 豚の主産県の出荷頭数の推移



(2) 食肉卸売市場における豚肉の状況

ア 取引状況

食肉卸売市場(中央卸売市場10、指定市場19)における豚肉の取引成立頭数は227万7千頭で、前年並みであった。市場別では、中央卸売市場が100万頭で前年に比べ1.5%増加し、指定市場は127万7千頭で前年に比べ1.6%減少した。

全国のと畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の割合は13.9%(227万7千頭)で、前年に比べ0.2ポイント低下した。

表5 食肉卸売市場の豚肉の取引成立頭数の推移

区 分		食肉卸売市場		
		中央卸売市場	指定市場	
実 数	平. 13	2 221	959	1 262
	14	2 283	985	1 298
	15	2 277	1 000	1 277
対前年比	平. 13	95.3	93.3	97.0
	14	102.8	102.7	102.9
	15	99.7	101.5	98.4

単位 { 成立頭数：1,000頭  
比 率：%

表6 全国と畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の推移

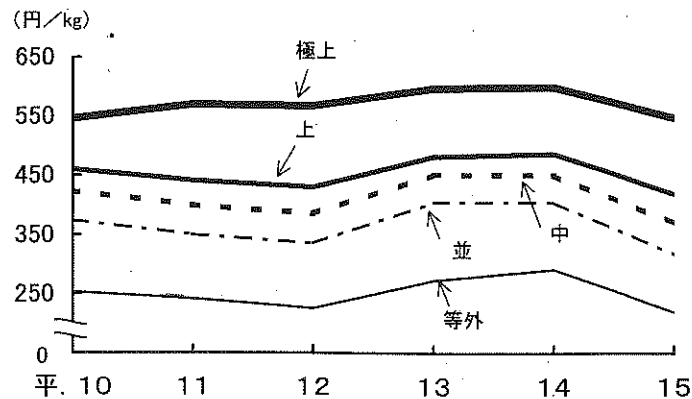
年 次	全国と畜頭数	食肉卸売市場	割 合	
			頭数：1,000頭	割合：%
平. 13	16 329	2 221		13.6
14	16 183	2 283		14.1
15	16 396	2 277		13.9

単位 { 頭数：1,000頭  
割合：%

イ 卸売価格の動向

食肉中央卸売市場における豚肉の規格別卸売価格は、「極上」が549円(1kg当たり。以下同じ。 )、「上」が420円、「中」が371円、「並」が318円、「等外」が220円となり、それぞれ50円(8.3%)、66円(13.6%)、79円(17.6%)、86円(21.3%)、71円(24.4%)低下した。

図5 豚肉の規格別卸売価格の推移(1kg当たり平均価格)  
(食肉中央卸売市場)



#### 4 肉牛の概要

##### (1) 成牛の出荷状況

成牛の出荷(と畜)頭数は120万2千頭で、前年に比べ6万1千頭(4.8%)減少した。

このうち、和牛は46万1千頭で前年に比べ12.5%減少し、乳牛は72万6千頭で前年に比べ0.6%増加した。

成牛の種類別出荷頭数割合をみると、和牛が38.4%(46万1千頭)で平成10年に比べ7.1ポイント低下したのに対し、乳牛は60.4%(72万6千頭)で平成10年に比べ7.5ポイント上昇した。また、その他の牛は1.2%(1万4千頭)で、平成10年に比べ0.4ポイント低下した。

図6 成牛の出荷(と畜)頭数の推移

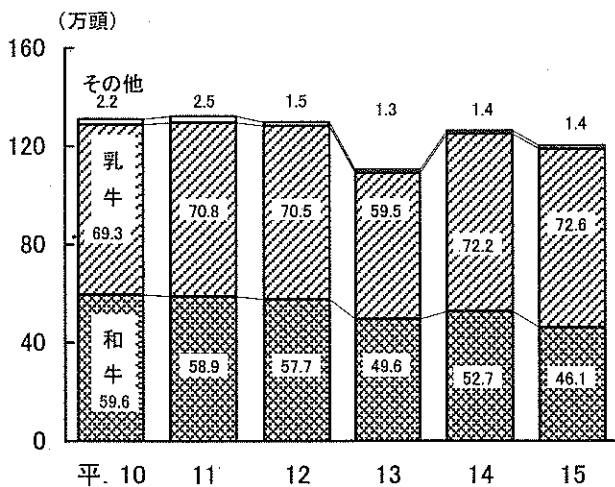
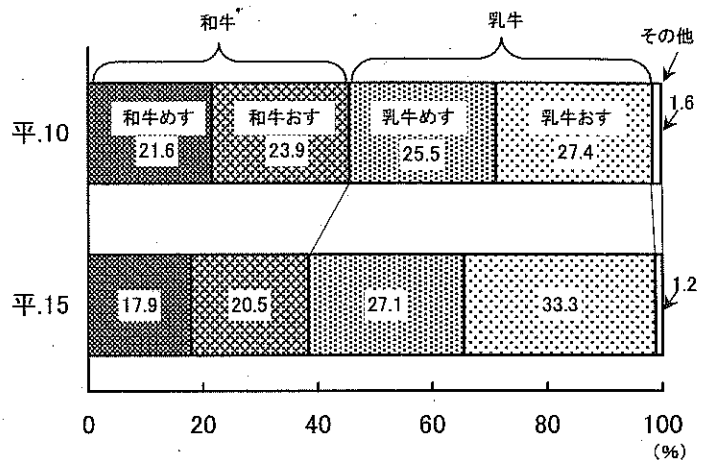


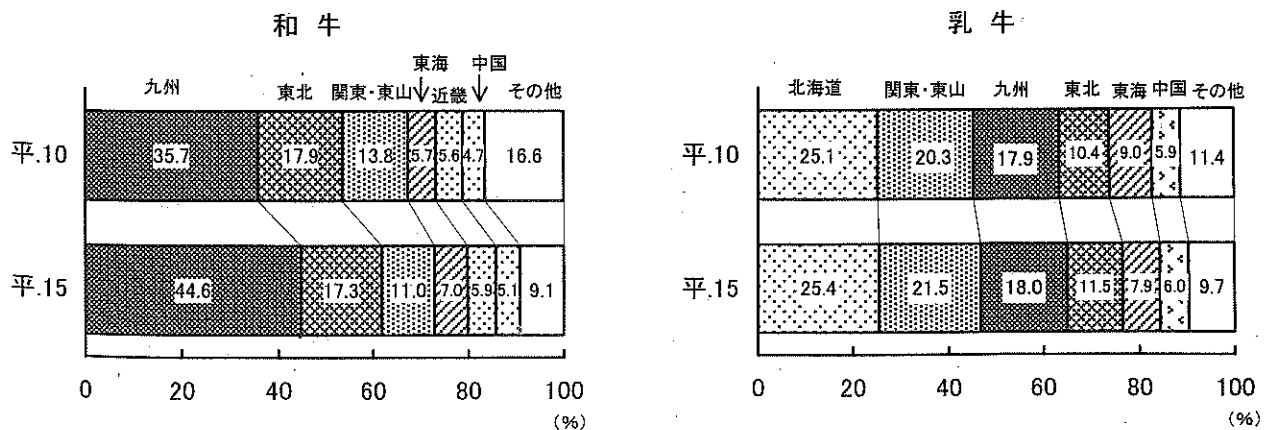
図7 成牛の種類別出荷頭数割合



成牛の出荷頭数を種類別に全国農業地域別割合でみると、和牛は、鹿児島県、宮崎県を中心とする九州が、平成10年に比べ8.9ポイント上昇し44.6%(20万6千頭)を占めて最も高く、次いで、宮城県、岩手県を中心とする東北が17.3%(8万頭)、群馬県、茨城県を中心とした関東・東山が11.0%(5万1千頭)となっており、この3地域を合わせた割合は平成10年に比べ5.5ポイント上昇し72.9%になった。

また、乳牛は、北海道が、平成10年に比べ0.3ポイント上昇し25.4%(18万5千頭)を占めて最も高く、次いで、栃木県、千葉県を中心とする関東・東山が21.5%(15万6千頭)、熊本県、宮崎県を中心とする九州が18.0%(13万1千頭)となっている。

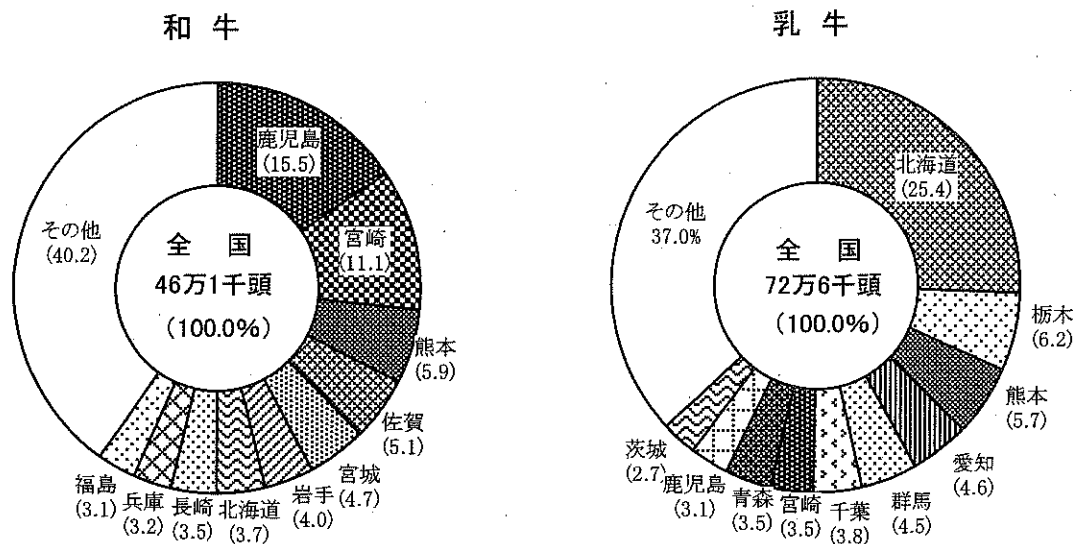
図8 成牛の種類別出荷頭数の農業地域別割合



都道府県別割合をみると、和牛は、鹿児島県が15.5%（7万1千頭）を占めて最も高く、次いで、宮崎県が11.1%（5万1千頭）、熊本県が5.9%（2万7千頭）、佐賀県が5.1%（2万3千頭）となっている。

また、乳牛は、北海道が25.4%（18万5千頭）を占めて最も高く、次いで、栃木県が6.2%（4万5千頭）、熊本県が5.7%（4万2千頭）、愛知県が4.6%（3万3千頭）となっている。

図9 成牛の種類別出荷頭数の都道府県別割合



(2) 食肉卸売市場における牛肉の状況

ア 取引状況

食肉卸売市場（中央卸売市場10、指定市場19）における成牛の取引成立頭数は42万9千頭で、前年に比べ10.8%減少した。市場別では、中央卸売市場は31万7千頭で前年に比べ7.4%減少し、指定市場は11万1千頭で前年に比べ19.3%減少した。

畜種別では、和牛は19万2千頭で前年に比べ15.3%減少し、乳牛は23万6千頭で前年に比べ7.0%減少した。

全国のと畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の割合は35.7%（42万9千頭）で、前年に比べ2.4ポイント低下した。

表7 食肉卸売市場の牛肉の取引成立頭数の推移

区分	食肉卸売市場	中央卸売市場	指定市場	畜種別			
				和牛	乳牛	その他の牛	
				成立頭数	成立頭数	成立頭数	
実数	平. 13	420	293	126	253	166	1
	14	481	343	138	227	254	0
	15	429	317	111	192	236	1
対前年比	平. 13	85.9	86.5	84.6	83.3	90.6	46.1
	14	114.5	116.8	109.3	89.4	153.0	65.4
	15	89.2	92.6	80.7	84.7	93.0	300.3

単位 { 成立頭数：1,000頭  
比率：%

表8 全国と畜頭数に占める食肉卸売市場取引成立頭数の推移

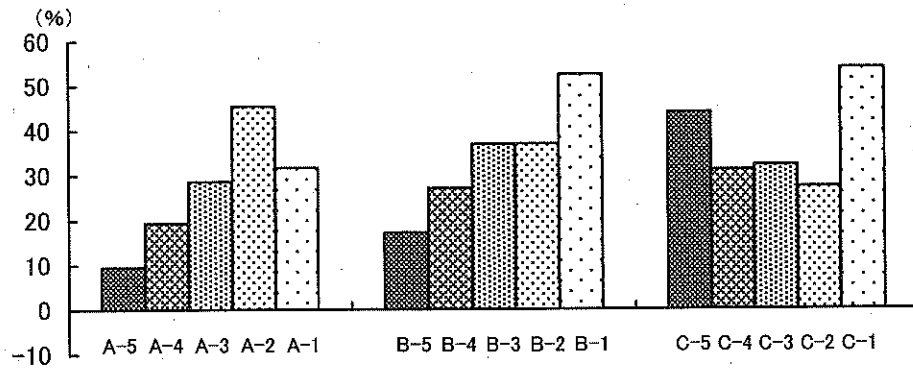
単位 { 頭数：1,000頭  
割合：%

年次	全国と畜頭数	食肉卸売市場	割合
平. 13	1 103	420	38.0
14	1 263	481	38.1
15	1 202	429	35.7

イ 卸売価格の動向

食肉卸売市場における牛肉の規格別卸売価格を対前年騰落率で見ると、BSEの影響が落ち着きつつあること等から、すべての規格において上昇している。

図10 成牛の規格別取引価格の対前年騰落率





## 第2部 鶏卵の流通

### 1 鶏卵生産量

鶏卵生産量は252万9千tで、前年並みであった。

都道府県別割合をみると、鹿児島県が6.8%（17万3千t）を占めて最も高く、次いで、茨城県が6.7%（16万9千t）、千葉県が5.7%（14万5千t）、愛知県が5.2%（13万2千t）となっている。

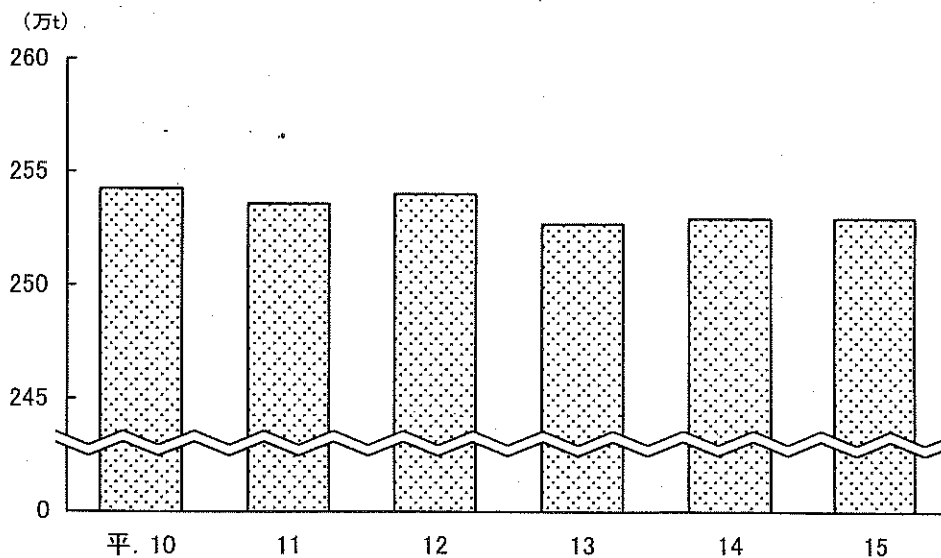
表9 主要都道府県別鶏卵生産量

区 分	生 産 量		対前年比	平. 15 構成比
	平. 15	14		
全 国	2 529	2 529	100.0	100.0
鹿 児 島 1	173	172	100.6	6.8
茨 城 2	169	155	109.0	6.7
千 葉 3	145	147	98.6	5.7
愛 知 4	132	134	98.5	5.2
広 島 5	110	109	100.9	4.3
北 海 道 6	110	108	101.9	4.3
青 森 7	95	91	104.4	3.7
岡 山 8	91	91	100.0	3.6
兵 庫 9	89	93	95.7	3.5
群 馬 10	80	83	96.4	3.2
そ の 他	1 335	1 346	99.2	53.0

単位 { 生産量：1,000 t  
比 率：%

注：都道府県名の数値は、生産量の都道府県別順位である。

図11 鶏卵生産量の推移



## 2 鶏卵の出荷状況

鶏卵出荷量は、245万4千tで、前年並みであった。

これを全国農業地域別割合で見ると、千葉県、茨城県を中心とする関東・東山が最も多く、出荷量の23.2%（57万t）を占めている。次いで、鹿児島県、福岡県を中心とする九州が16.9%（41万6千t）、愛知県、岐阜県中心の東海が13.6%（33万4千t）、青森県、宮城県中心の東北が13.6%（33万3千t）となっている。

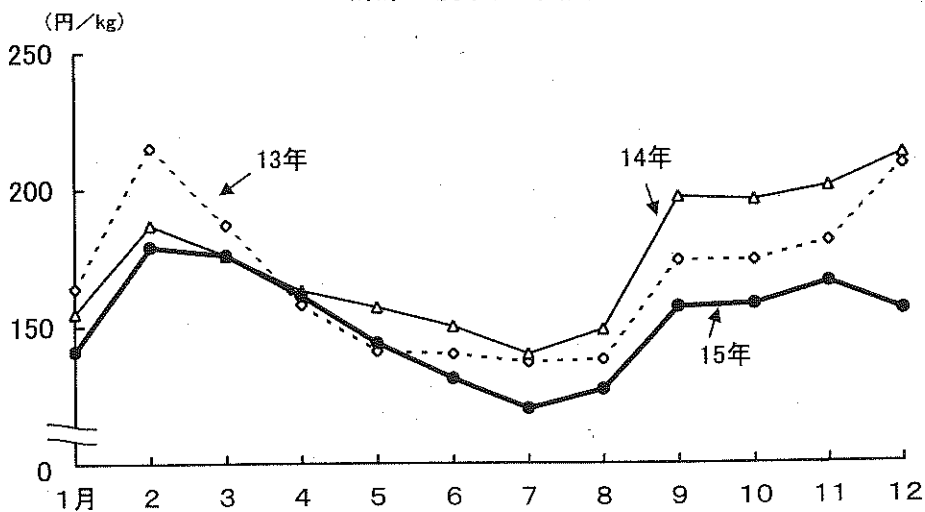
表10 鶏卵の全国農業地域別出荷量

区 分	出 荷 量		対前年比	平. 15 構成比
	平. 15	14		
全 国	2 454	2 453	100.0	100.0
北 海 道	108	107	100.9	4.4
東 北	333	334	99.7	13.6
北 陸	120	125	96.0	4.9
関 東・東 山	570	563	101.2	23.2
東 海	334	336	99.4	13.6
近 畿	145	150	96.7	5.9
中 国	272	270	100.7	11.1
四 国	137	136	100.7	5.6
九 州	416	412	101.0	16.9
沖 縄	21	21	100.0	0.8

単位 { 生産量：1,000 t  
比率：%

(参考) 卸売価格 (鶏卵市況情報)

図12 鶏卵卸売価格の推移  
(東京全農系、M規格、中値)



### 第3部 食鳥の流通

#### 1 食鳥の処理量

食鳥処理羽数、重量は、大部分を占めるブロイラーが鶏肉需要に支えられやや増加したことから、処理羽数は6億9,925万羽、重量は184万1,507 tで、前年に比べそれぞれ1.8%、1.9%増加した。

表11 全国の食鳥処理量・製品生産量（平成15年）

単位 { 処理羽数 : 1,000羽  
重量 : t  
製品生産量 : t  
比率 : %

区 分	処 理 量 ( 生 体 )				製 品 生 産 量					
	実 数		対前年比		実 数			対前年比		
	羽 数	重 量	羽 数	重 量	計	と体・ 中ぬき	解体品	計	と体・ 中ぬき	解体品
計	699 248	1 841 507	101.8	101.9	1 080 878	98 066	982 812	103.0	99.7	103.3
ブロイラー	595 283	1 645 096	101.6	101.8	982 335	69 960	912 375	102.6	100.7	102.8
その他の肉用鶏	9 318	28 316	101.7	102.3	16 278	4 730	11 548	104.0	142.6	93.7
廃 鶏	91 913	162 886	102.7	102.6	79 697	22 656	57 041	107.1	91.4	115.0
その他の食鳥	2 734	5 209	127.6	107.7	2 568	720	1 848	105.4	96.1	109.5

#### (1) ブロイラー

ア 処理羽数は5億9,528万羽、重量は164万5,096 tで、鶏肉需要に支えられ前年に比べそれぞれ1.6%、1.8%増加した。

また、出荷戸数は3,323戸で前年に比べ1.2%減少したものの、出荷羽数が1.6%増加したことから、1戸当たり出荷羽数は17万9千羽で2.8%増加した。

表12 ブロイラーの出荷戸数・羽数及び1戸当たり出荷羽数の推移

単位 { 戸 数 : 戸  
羽 数 : 1,000羽  
比 率 : %

区 分	出 荷 戸 数	出 荷 羽 数	1 戸 当 たり 出 荷 羽 数	
実 数	平.13	3 385	567 876	167.8
	-14	3 365	586 045	174.2
	15	3 323	595 283	179.1
対前年比	平.13	96.7	99.8	103.3
	14	99.4	103.2	103.8
	15	98.8	101.6	102.8

イ 年間出荷羽数規模別出荷戸数・出荷羽数をみると、出荷羽数50万羽以上規模が150戸、1億7,576万羽で前年に比べそれぞれ7.1%、5.3%増加し、全体に占める割合は、戸数で4.5%であるのに対し、羽数で29.5%となっている。

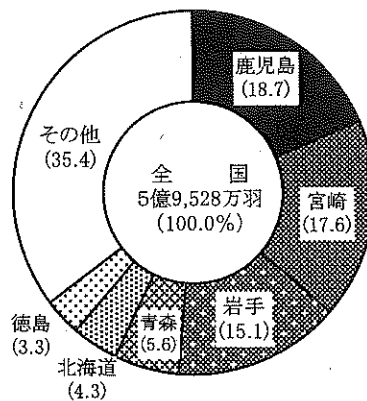
表13 プロイラーの年間出荷羽数規模別出荷戸数・出荷羽数の推移

単位 { 出荷戸数：戸  
出荷羽数：1,000羽  
比率：%

区 分		計	5万羽未満	5～10	10～20	20～30	30～50	50万羽以上
出荷戸数	平. 15	3 323	814	622	1 103	393	241	150
	14	3 365	833	652	1 096	397	247	140
	対前年比	98.8	97.7	95.4	100.6	99.0	97.6	107.1
	構成比	平. 15	100.0	24.5	18.7	33.2	11.8	7.3
	14	100.0	24.8	19.4	32.5	11.8	7.3	4.2
出荷羽数	平. 15	595 283	21 355	45 895	160 672	97 808	93 794	175 759
	14	586 045	21 836	47 981	157 340	98 248	93 696	166 944
	対前年比	101.6	97.8	95.7	102.1	99.6	100.1	105.3
	構成比	平. 15	100.0	3.6	7.7	27.0	16.4	15.8
	14	100.0	3.7	8.2	26.8	16.8	16.0	28.5

ウ 都道府県別出荷羽数割合をみると、鹿児島県が18.7%（1億1,135万羽）と最も多く、次いで宮崎県が17.6%（1億502万羽）、岩手県が15.1%（9,010万羽）の順となっており、この3県で全国の5割を占めている。

図13 プロイラー出荷羽数の都道府県別割合

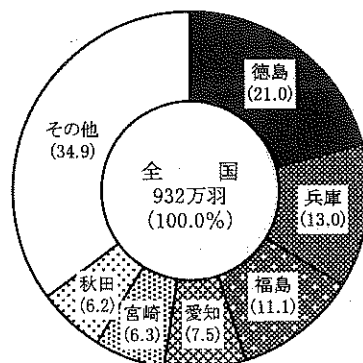


## (2) その他の肉用鶏

肉用鶏のうち、ふ化後3か月以上の鶏（一般的に「地鶏」、「銘柄鶏」といわれる鶏）の処理羽数は932万羽、重量は2万8,316tで前年に比べそれぞれ1.7%、2.3%増加した。

都道府県別出荷羽数割合をみると、徳島県が21.0%（195万羽）と最も多く、次いで兵庫県が13.0%（121万羽）、福島県が11.1%（104万羽）、愛知県が7.5%（70万羽）、宮崎県が6.3%（59万羽）、秋田県が6.2%（58万羽）の順となっている。

図14 その他の肉用鶏出荷羽数の都道府県別割合



### (3) 廃鶏

処理羽数は9,191万羽で前年に比べ2.7%増加し、重量は16万2,886 tで前年に比べ2.6%増加した。

### (4) その他の食鳥

あいがも、うずら、あひるなどの鶏以外の処理羽数は273万羽、重量は5,209 tで前年に比べそれぞれ27.6%、7.7%増加した。これは、うずらの羽数が増加したためである。

## 2 ブロイラーの飼養戸数・羽数（平成16年2月1日現在）

平成16年2月1日現在のブロイラーの飼養戸数は2,778戸で、前年に比べ2.1%減少した。一方、飼養羽数は1億495万羽で1.2%増加したことから、1戸当たり飼養羽数は3万7,800羽で、前年に比べ3.6%増加した。

農業地域別割合でみると、主産県である宮崎県、鹿児島県を中心とする九州の占める割合が最も高く、飼養戸数で38.9%（1,082戸）、飼養羽数で45.5%（4,765万羽）となっており、次いで、岩手県を中心とする東北が同じく17.0%（473戸）、23.0%（2,418万羽）となっている。

表14 ブロイラーの農業地域別飼養戸数・羽数

農 業 地 域	飼 養 戸 数			飼 養 羽 数		
	実 数	対前年比	構 成 比	実 数	対前年比	構 成 比
全 国	2 778	97.9	100.0	104 950	101.2	100.0
北 海 道	8	114.3	0.3	2 432	103.1	2.3
東 北	473	97.1	17.0	24 183	106.6	23.0
北 陸	24	104.3	0.9	751	91.0	0.7
関 東 ・ 東 山	231	99.6	8.3	5 238	97.9	5.0
東 海	166	96.0	6.0	4 608	95.9	4.4
近 畿	251	98.8	9.0	5 016	93.0	4.8
中 国	127	83.0	4.6	6 614	89.3	6.3
四 国	399	97.8	14.4	8 018	99.5	7.6
九 州	1 082	99.8	38.9	47 646	103.1	45.5
沖 縄	17	94.4	0.6	444	68.9	0.4

単位 { 飼養戸数：戸  
飼養羽数：1,000羽  
比率：%

## 3 製品生産量（と体・中ぬき及び解体品）

食鳥処理場における食鳥の製品生産量（と体・中ぬき及び解体品）は、108万878 tで前年に比べ3.0%増加した。

このうち、大部分を占めるブロイラーについてみると、製品生産量は98万2,335 tで前年に比べ2.6%増加した。これを処理別にみると、と体・中ぬきは6万9,960 tで前年に比べ0.7%増加し、解体品は91万2,375 tで前年に比べ2.8%増加した。

#### 4 食鳥処理場数

食鳥を処理した全国の食鳥処理場数は676場で前年に比べ1.6%減少した。

これを食鳥の種類別にみると、その他の肉用鶏は168処理場で前年に比べ14.3%増加したものの、ブロイラーは197処理場、廃鶏は358処理場、その他の食鳥は95処理場で前年に比べそれぞれ3.4%、4.3%、6.9%減少した。

また、1食鳥処理場当たりの処理量は2,724 tで前年に比べ3.6%増加した。

表15 全国の食鳥処理場数及び1処理場当たり処理量

単位 { 処理場数：場  
処理量：t

区分	1) 食鳥処理場	食鳥の種類別処理場			
		ブロイラー	その他の肉用鶏	廃鶏	その他の食鳥
処理場数					
平.15	676	197	168	358	95
14	687	204	147	374	102
対前年比 (%)	98.4	96.6	114.3	95.7	93.1
1処理場当たり処理量					
平.15	2 724	8 351	169	455	55
14	2 630	7 919	188	424	47
対前年比 (%)	103.6	105.5	89.8	107.2	116.0

注：1)は、食鳥を処理した実処理場数であり、1処理場で数種類の処理を行っている場合があることから、食鳥の種類別処理場数とは一致しない。

(参考) 卸売価格 (食鳥市況情報)

図16 ブロイラー卸売価格(東京、中値、もも)の推移

